

音楽科学習指導案

広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1. 日時 平成21年11月〇日(〇)
2. 学年・学級 第1学年〇組
3. 題材 箏の音色の美しさを味わおう
4. 教材 「さくら」
5. 題材の目標 箏に親しみ、箏の音色の美しさを味わおう

6. 題材について

○ 現行学習指導要領では、「和楽器については、3学年間を通じて1種類以上の楽器を用いること」と示されていたが、新学習指導要領では、「和楽器の指導については、3年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること」と改訂されている。このことは、国際社会に生きる日本人として、自国の文化や伝統を知り、その価値を理解し共感できるようにするという背景のもと、実際に楽器に触れ表現することが求められているということである。

これまでも様々な和楽器が授業で取り上げられているが、箏は生徒が比較的簡単に旋律を演奏することができ、興味・関心を高めることに効果的である。また、文化箏であれば比較的廉価で手に入れることができる楽器である。1年時では、箏ならではの旋律の美しさ、音色の美しさを体験する題材として取り扱うこととした。

○ 第1学年の生徒の実態として、入学当初は音楽を楽しんでいる生徒が少なく感じたため、まずは音楽の楽しさを感じさせるよう常に意識しながら授業を行ってきた。授業の中で歌唱活動だけでなく、器楽や創作によるリズム打ちなども行い、音楽には様々な楽しい活動があることを生徒に体験させてきた。少しずつではあるが、生き生きとした表情で活動に取り組めるようになってきたように思う。和楽器については地域で和太鼓を経験している生徒もいるようだが、音楽の授業の中で学習した経験はないようである。

○ 題材の導入教材として、「さくら」を取り上げる。この作品は、日本古謡として、生徒にはなじみの深い作品である。また第1学年の生徒が初めて和楽器に触れる機会として、基本的な奏法を生かして表現できる作品であり、箏への興味・関心を高めることができる教材としてふさわしい。

指導にあたっては、生徒の自主的な活動を尊重しながら、基本的な奏法を習得させたい。実際に箏の演奏を体験させたり、箏曲を鑑賞させたりすることで箏に親しませ、箏の音色の美しさや箏曲のよさを味わわせたい。また箏の代表的な奏法(押し手、トレモロ、グリッサンドなど)による微妙な音高や余韻の変化を、表現活動を通して味わわせ、興味・関心を高めていきたい。

題材の終わりに箏曲「六段の調べ」を鑑賞することにより、箏の奏法や音色の特徴、箏の豊かな表現を深く感じとらせ、日本の伝統音楽の美しさを味わわせたい。

7. 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の音色や奏法，特徴などに関心を持ち，意欲的に表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の音色や特徴を感じ取り，奏法による音色の変化を感じ取って，表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の基本的な奏法を生かして演奏する技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の音色の美しさ，よさを感じ取って聴いている。 ・ 日本の代表的な箏曲を鑑賞することにより，箏曲の豊かな響き，表現方法を感じ取ることができる。
学習活動における具体的評価規準	<p>① 箏の音を出すことに関心を持ち，意欲的に練習している。</p> <p>② 箏の奏法による余韻の変化に関心を持って表現することに意欲的である。</p>	<p>① 箏の基本的な奏法を理解し，様々な奏法による音色の変化を感じ取っている。</p> <p>② 箏の様々な奏法を理解し，音色の変化を工夫して表現している。</p>	<p>① 箏の基本的な奏法を身につけている。</p> <p>② 箏の余韻の変化のつくり方を理解し，演奏できる。</p> <p>③ 曲のリズム，拍を感じ取って演奏できる。</p>	<p>① 箏の音色の特徴，旋律の美しさを感じ取って聴いている。</p> <p>② 箏曲の豊かな響きや奏法による音色の変化を感じ取って聴いている。</p>

8. 指導計画(全3時間)

時	☆ねらい ○学習(指導)内容・学習活動	【評価規準】 (評価方法)	共通事項	教材
1 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">☆ 「箏の響きを味わおう。」</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 箏を演奏する際の座り方，弦の名前，爪のつけ方について学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プリント学習をする。 ○ 楽譜1を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 押し手の響きを感じ取りながら注意して弾く。 ・ 課題に取り組み，5人班で教え合う。 ○ 各班から1人ずつ順番に演奏し，6つの班で合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違えても最後まで演奏する。 ○ 各班で代表が出てリレー奏をする。 	<p>【ア①】(観察)</p> <p>【イ①】(観察)</p> <p>【ウ①②】(観察)</p> <p>【ア①】(観察)</p> <p>【ア②】(観察)</p> <p>【ア①】(観察)</p>	<p>音色</p> <p>旋律</p>	<p>日本古謡 「さくら」</p>

時	☆ねらい ○学習（指導）内容・学習活動	【評価規準】 （評価方法）	共通事項	教材
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">☆ 箏の基本的な奏法を知る。</div> ○ 箏の基本的な奏法（爪のつけ方，弦のはじき方，右手の位置，押し手の方法）について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プリントで確認する。 ○ 楽譜 1 を基本的な奏法に気をつけて 5 人班で練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ わからないところは班で教え合う。 ・ 押し手の奏法に気をつける。 ・ 弦のはじき方に気をつける。 ○ 楽譜 2 に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グリッサンドの奏法を学習する。 ・ 弦の番号についている指使いに気をつける。 ・ 前奏，後奏のリズムや拍に気をつける。 	【ア①②】（観察） 【ウ①②】（観察） 【ア①②】（観察） 【ウ①②③】（観察）	音色 旋律 リズム	日本古謡 「さくら」
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">☆ 箏曲「六段の調べ」から箏の響き，音色の美しさを感じ取る。</div> ○ 前時の復習として楽譜 2 を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グリッサンド，押し手に気をつける。 ○ 箏曲「六段の調べ」を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 箏には様々な奏法があることに気づき，箏の響きや音色の美しさ，日本の伝統音楽の静かな雰囲気味わう。 ○ 各班で 1 人ずつ演奏し，楽譜 2 を 6 つの班で合奏する。	【ウ①②③】（観察） 【エ①②】（感想文） 【イ②】（観察）	音色 旋律 音色 速度 旋律 旋律	日本古謡 「さくら」 箏曲 「六段の調べ」

9. 本時の目標

箏の響きや音色の美しさを感じ取る。

10. 学習過程

学習活動	○指導上の留意点	【評価規準】(評価方法) ☆共通事項
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>箏の響きを味わおう。</p> </div> <p>1. 本時の学習について知る。</p> <p>2. 箏を演奏する際の座り方, 弦の名前, 爪のつけ方について学習する。</p> <p>3. 「さくら」楽譜1を演奏する。5人班で協力しながら, 1人ずつ演奏する。</p>	<p>○ 箏を演奏する落ち着いた雰囲気をつくる。</p> <p>○ プリントにより確認する。基本的な名称や奏法については教師が説明するが, 「さくら」を演奏するため読譜については生徒の主体的活動を促す。</p> <p>○ 教師は5人での活動が停滞している班を援助し, 生徒の力で課題に取り組みせるよう援助する。</p> <p>○ 爪のつけ方, 座り方, 弦の場所, 弦の弾き方を考えて演奏するよう指導する。</p>	<p>【ア①】(観察) ☆音色</p> <p>【イ①】(観察) 【ウ①】(観察)</p>
<p>評価Aと判断される具体例: 楽譜を読み取って十分に表現できている。班で協力している。</p> <p>評価Cと判断される生徒への指導の手だて: プリントに示された部分を指し示し, 気づかせ, 正しい理解を促す。</p> <p>予想される生徒の反応: 爪のつけ方が違っている。座り方が違っている。押し手をどうすればいいかわからない。親指でどう演奏するのかわからない。</p>		
<p>4. 各班から1人ずつ順番に演奏し, 6班で合奏する。</p>	<p>○ できるだけ6人で合わせて演奏し, 全体で合わせる音の美しさを感じさせたいが, 技術的に難しい場合, 部分的に参加できるように促す。</p>	<p>【ア①】(観察) ☆旋律</p>

○ 必ず演奏が終わったら、頑張りをたたえる拍手をするよう働きかける。

【ア② ウ②】（観察）

○ 押し手の響きを味わい、奏法を理解する。

評価 A と判断される具体例：奏法を理解して演奏している。みんなに合わせることができる。

評価 C と判断される生徒への指導の手だて：遅いテンポで少しずつ演奏するよう促す。

予想される生徒の反応：最初はあわせようと努力するが途中から弾けなくなる。

5. 各班より代表を決めて 1 班 2 小節ずつリレー奏をする。

○ 演奏が困難な生徒については、教師と一緒に演奏し、援助する。

【ア①② ウ①】（観察）

○ 学級で 1 曲を演奏することによる達成感を味わわせる。

評価 A と判断される具体例：演奏するタイミング、拍子、テンポに気をつけ、基本的な奏法を理解して演奏できる。

評価 C と判断される生徒への指導の手だて：教師と一緒に演奏し、援助する。

予想される生徒の反応：演奏する際にテンポがあわない。

6. 次時へのめあてを持つ。

○ 次の時間に前奏、後奏の入った少し難しい課題を演奏することを伝える。